

香川 全研ニュース 第四号

認知症の人と家族の援助をすすめる

第39回全国研究集会

全国の会員皆様の想いで一杯の抄録・誌上報告を手に持ちませんか？

本部よりメールで送られた抄録・誌上報告書。

改めて目を通すと、本屋に並んでない、一生懸命生きた、生きている姿が浮かんできます。

ぜひ、いつまでも手元に置いていただきたい。そのために香川県支部より、手渡しします。関係書類をお受け取り下さいませ。全国会員の方々の想いと一緒にお受け取り下さいませ。

全研 < 予告 一 >

誌上報告より

妻 89 歳 夫 88 歳 認知症になられた奥様は看護師

5 年過ぎて寝たきり。その後は 1～2 年で亡くなると医師より宣告を受けたが、落胆から立ち直るに時間はかからなかった。

宣告を受けると夫婦は今後の対策を検討。

医師は皆「治らない。薬はない。」の一辺倒であったが、私には「治したい。」の気持ちがあり反抗的思いから「治る」と書かれた医師の本を読み漁った。

過度な制約より適切を心がけ、意識した方針の基、認知症を相手に夫婦で取り組んだ。

5 年過ぎて奥様は元気。多くのことに気付かされ、認知症という病気が御夫婦をこの上もなく仲良くしてくれた。夫婦仲良く 95 歳を目指すと今後の生活の夢を書いて下さっています。

大切にした方針は、抄録・誌上報告にてお読み下さいませ。

全研 < 予告 二 >

ポスターセッション

高松市認知症疾患医療センター研修の場で

認知症になって、高齢になって、アルコール依存症になっている方に課題を問題視をするより、今後どのような人生を歩みたいと想っていますか、残された人生をどう歩みたいですかと問いかける。すると、意外と求めている姿に変わることがある。どのような状態であっても問題を指摘するより、相手に望む姿をイメージできるよう問いかけることが大切だと…

ポスターセッションでは医療関係者から提案いたします。

全研 < 予告 三 >

「スマホと認知症」

全研実行委員長、中村祐先生との関わりによって「もの忘れ外来」を創設から始まる奥村医師の抄録。直接患者本人と関わることによって気付かされた事を専門職として活かしていく姿がとても好ましく思いました。

改めて医師という存在の幅は無制限であることに気付かされる。

ゆかいであり、思わずうなずいている自分に出会える。

760-0080

香川県高松市木太町 3127-1

なかよしマンション木太 202 号

認知症の人と家族の会 香川県支部

香川 全研ニュース 第四号

ころんでも起き上がるダルマさん。
ころんでも、その姿はほんのいつとき。
すぐ起き上がる助走態勢になる。
そして、すずしい顔をして、元の場所に座る。

あたかも認知症の方のよう。
周りの人のコメントなどすぐ忘れて、自分らしい姿になる。
全研には多くのダルマさんが集まって想いを発信する。

同じダルマさんはいない。よく似たダルマさんはいる。
でもよく見ると一人ひとり違ったダルマさん。
ころんでも、ころんでも、立ち上がるダルマさん。
ダルマさんに負けないよう、少しでも早く立ち上がろう。
そして、地域の皆さまと一緒に良い社会になるよう努力しよう。



760-0080

香川県高松市木太町 3127-1

なかよしマンション木太202号

認知症の人と家族の会 香川県支部